

4. 3. Cクラス

I. 担当実習生

日本語教育学講座 大島晋

現代日本語学講座 太田真由美

II. クラス目標

今回の実習は、一日3時間程度で6日間の短期コースであること、また各学習者に日本語能力試験受験などの共通の目的がないことが特徴としてあげられる。一日3時間で6日間というのは、学習者の全体的な日本語能力を高めるには十分な期間とは言えない。したがって、持っている日本語能力に新たな項目を付加するよりも、「今もっている日本語能力を最大限利用する（ストラテジーなど）ことで、情意面での負荷を下げる。実用的な項目を取り上げつつ、内容の面白さ、達成感を最重視する」、というクラス目標を掲げた。

III. 学習者

学 習 者	国 籍	性 別	参 加 日
A	カナダ	男	12, 16, 17
B	米国	男	全日（除遠足）
C	豪州	女	全日
D	アイルランド	男	11
E	米国	男	全日（除遠足）

IV. 学習者のニーズ・レディネス

事前アンケートの結果では、「焦点をあてて欲しい内容」としていたのは、「会話」4名、「文型」1名であった。先に挙げたクラス目標もこの結果を基にしている部分が多い。また、学習者のレディネスに関しては、日本語能力を測るプレースメントテストなどを行っていないためかなり大まかな日本語でのコミュニケーション能力しか分かっていない。

V. シラバス

1限目は、場面シラバスを用いて、学習者に実践的な日本語の運用能力を身に付けさせることを目的とした。そして、場面シラバスの中に、どのように文法項目を取り入れていくかを課題とした。

2限目では、新しい日本語の文法や語彙を導入するということに焦点をおかず、日本滞在

で知っていた方がよい知識、技術を教授し、またコミュニケーションのためのタスクを用意し、そのタスクに合わせて授業を展開するといった感じで展開するといった複合シラバスを採用した。

月日	1 限目	2 限目
8月10日(月)	自己紹介	日本語でコンピューターを操作する
8月11日(火)	家電を購入する 美容院に行く	日本での生活や、日本語学習に役立つサイトを紹介する
8月12日(水)	電話で誘う	図形とその位置関係を指示するタスク(口頭)
8月17日(月)	同僚の先生と食事に行く	図形とその位置関係を指示するタスク(CMC)と絵の間違いを指摘するタスク(CMC)
8月18日(火)	学校へ連絡する 校長先生と会話する	絵の間違いを指摘するタスク(口頭)、あるものを別の表現で説明する
8月19日(水)	読解「スリッパ」	マンガを読む・様々なオノマトペ

VI. テキスト編纂

1限目の授業では、場面に応じた複数の会話(Dialogue)を作成し、英訳をつけた単語のリスト、文法・表現の資料とともに、学習者に配布した。

2限目の授業では、ウェブページ上にリンク集なども兼ねたテキストを載せて、必要に応じて参照した。また、読解の授業に関しては、単語集などをプリントアウトの形で配布した。

VII. クラス内容

2005年8月10日	1限目	担当：太田
学習事項		
<p>・互いに自己紹介をして、出身地・趣味などについて話す。 ～として／ご～ (polite) ／～より～の方が～／～のは／Volitional Form+ と思った Potential Verbs／～んです</p>		
授業の流れ		
<p>実習生の自己紹介 → 学習者の自己紹介 → 会話の呈示 → 文法説明・確認 → タスク（初対面の人に話しかける） → クイズ（その人は誰でしょう） → テキスト・資料の確認 → フリートーク</p>		
反省		
<p>フリートークが活発にできる学習者達だったので、1日目の授業で、学習者達は「できる」と思い込み、学習者間のレベル差、学習者の文法力のなさを見逃してしまった。</p>		
2005年8月10日	2限目	担当：大島
学習事項		
日本語での入力・オンライン辞書の利用・日本語でEメールを書く		
授業の流れ		
各学習者をコンピューターの前に座らせて、コンピューターでのメール入力などを実際に行わせる。		
反省		
<p>若干試行錯誤気味で行ったため、その場その場で対策を考えるような芯のしっかりしていない授業を行うことになってしまった。学習者が何を学んでいるのか、ということ意識出来るように授業を運ぶべきであった。</p>		

2005年8月11日	1限目	担当：太田
学習事項		
<ul style="list-style-type: none"> ・家電の店で、店員と話す。①購入を保留する。②家電を購入する。 ・美容院で、髪を切る。 <p>Extra-modest/Humble Expressions/～のが/Honorific Verbs お+verb stem+下さい/～ておく</p>		
授業の流れ		
1日目の文法項目の復習 → 会話①の呈示 → 文法説明・練習 → 表現説明・練習 → 会話②の呈示 → 文法・表現説明 → 会話③の呈示 → 文法・表現説明		
反省		
学習者に文法が入っていないことが分かったことで、文法中心の授業になってしまった。しかも、立て続けに、尊敬語・謙譲語などの文法説明を延々とする授業としてしまった。		
2005年8月11日	2限目	担当：大島
学習事項		
買い物の情報をネットで調べる・実際に買い物をする・日本語の記事を読む (WebUD)		
授業の流れ		
昨日と同様に、学習者全員がコンピューターの前に座り、実際にインターネットに接続しながら、用意したカタログから選んだもの (デジタルカメラ) がネット上のどの店で安いかなどを探すタスクを行った。また、WebUD を利用した読解を行った。		
反省		
実用的でよいという評価を受けた反面、特にハンドアウトなどを作成しなかったために、学んだことを忘れてしまうといった指摘を受けた。もっと、計画的な授業を行うべきであった。		

2005年8月12日	1限目	担当：太田	
学習事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・友達に電話をかけて誘い、一緒にどこかへ行く約束をする。 ・道の説明をする。 <p>まだ～ていません／～なら／～ている／Transitivity Pairs／あげる・くれる・もらう ～てくれてありがとう</p>			
授業の流れ			
<p>2日目の文法項目の復習 → 文法（自他動詞など）確認 → 会話の呈示 → 文法・表現説明・練習 → タスク①（電話で誘う・受ける） → タスク②（道の説明をする） → リスニング</p>			
反省			
前日の反省から、授業をタスク中心のものとした。電話機の不具合、誘導の不手際もあったが、タスクは楽しいものとなった。			
2005年8月12日	2限目	担当：大島	
学習事項			
図形の位置、形、色などを指示するインフォメーションギャップタスク（口頭）			
授業の流れ			
学習者に修論での実験に利用する旨を伝えたあとに、タスクを行った。			
反省			
計らずとも、この授業がこれまででは一番日本語の授業を意識させるものとなった。学習者の、日本での生活力ではなく、日本語能力を刺激することが出来たからだろう。			

2005年8月17日	1限目	担当：太田	
学習事項			
<p>・約束の時間に遅れ、謝る。同僚の先生と食事に行く。友達と喫茶店に行く。 ～てしまう / ～ものですから / お+verb stem+になる / ～そうです V(Causative) + て下さい / Causative Sentences</p>			
授業の流れ			
<p>3日目の文法項目の復習・練習 → 会話①の呈示 → 文法・表現説明 → 表現練習 → 文法・表現説明 → 会話②の呈示 → 文法・表現説明 → 会話③の呈示 → 文法・表現説明 → 文型練習① → 文型練習② → 会話④の呈示 → 文法・表現説明 → ロールプレイ → フリートーク</p>			
反省			
<p>コース前半 3 日間を終え、学習者に文法力が思いのほかなかったことから、文法をしっかり押える授業へと自分の中で方向性が変わってしまった。しかし、細かい文法を押し付けることに何の意味があったのだろうか。ボトムアップの授業になってしまっているが、同じ場面シラバスを使うにしても、トップダウンの授業の方が、学習者にあっていたと思う。</p>			
2005年8月17日	2限目	担当：大島	
学習事項			
<p>図形の位置、形、色などを指示するインフォメーションギャップタスク (CMC) 自分の持っている絵と相手の持っている絵の違いを指摘するジグソータスク (CMC)</p>			
授業の流れ			
<p>コンピューター室を利用して、先に行ったタスクと、新しいタスクをしてもらった。新しいタスクを行う前に、いくつかの語彙の導入を行っている。</p>			
反省			
<p>コンピューターで行うことに意味を持たせるという作業が欠如していた。実験であるため、コンピューターを利用することは既定事項であったわけだが、学習者にどのような利益があるかなどの説明は教師という立場上するべきであった。</p>			

2005年8月18日	1限目	担当：太田	
学習事項			
<p>・体調が悪いので、学校へ欠席の連絡をする。①直属の先生に代わってもらう。②伝言をお願いします。</p> <p>V(Causative)＋ていただけませんか／～にお伝えいただけますか／～ので Passive Sentences/Honorific(Passive Form)／～つもりだ／name という item</p>			
授業の流れ			
<p>4日目の文法項目の復習・練習 → 会話①の呈示 → 文法・表現説明 → 表現練習 → ロールプレイ → 会話②の呈示 → 文法・表現説明 → 表現練習 → ロールプレイ → 会話③の呈示 → 文法・表現説明 → 文法説明 → 問題（尊敬語をさがす） → リスニング</p>			
反省			
<p>ロールプレイにおいては、それらしい状況を作るべきであった。授業時間が残り少なくなったとき、準備した項目を無理に取り上げず、学習者の負担と混乱を避け、学習した内容の復習などの時間にあてるべきであった。</p>			
2005年8月18日	2限目	担当：大島	
学習事項			
<p>自分の持っている絵と相手の持っている絵の違いを指摘するジグソータスク（口頭） 身近なものを日本語で表現する練習</p>			
授業の流れ			
<p>机を並べ替えて、お互いに姿の見えない状態にしてタスクを行う。その次に、サバイバルとして役に立ちそうな能力である「言い換え」に関するタスクを行った。</p>			
反省			
<p>「言い換え」に関するタスクはお粗末だった。タスクを行うときは、よほど準備が大変なものを除いて、難易度にある程度幅を持たせた準備を行う必要があった。</p>			

2005年8月19日	1限目	担当：太田
学習事項		
エピソード「スリッパ」を読む。日本に来て驚いたことを話し合う。 ～時／Causative-passive Sentences		
授業の流れ		
5日目の文法項目の復習・練習 → 話題の呈示 → 読解文黙読 → 読解文の確認 (一節ずつ指名された学習者が音読 → 意味・文法の確認) → 問題シート (内容の確認)		
反省		
学習者は、著しく読解力がなかった。黙読にかなりの時間を費やし、一文ずつ意味を追っていくのに終始してしまった。事前に学習者の読解力を見るべきであり、また、学習者に読解力がないとわかった時点で、授業の内容を変えるべきであった。		
2005年8月19日	2限目	担当：大島
学習事項		
マンガ「ドラえもん」の読解		
授業の流れ		
マンガを読み続けた。		
反省		
1時限目に読解を行ったため、統一感を持たせるためにこちらでも読解を行ったが、学習者からしてみれば2時限連続での読解は苦痛であったかもしれない。中途半端な統一させようという意識が生んだ結果である。1時限目に読んだ内容に基づいての活動を行うなど、より変化のある授業を行うべきであった。		

VIII. アンケート

1限目の授業にかかわる項目、テキスト・ハンドアウトの教材は、役に立ったかという問いに、Cクラスの回答者4名は全員 Yes とした。しかし、その理由を1名は「日本語の文法項目の英語の説明。沢山の新しい語彙」としているが、他の1名は「大変詳細。殆ど多すぎる。」としているので、不必要に詳細で量が多かったと反省している。

また、1名の学習者は、その他のコメントとして「BとCのレベルの間のコースが必要。Bが簡単すぎ、Cは難しすぎる。」としている。クラス分けについては慎重にならなければならないが、やはり、このように学習者にレベル差があっても、学習者全員が楽しめる授業内容を考えるべきであったと思う。

2限目に関するアンケート調査についての詳細は、実習研究にて詳しく論じているため、

ここでは簡単に述べるにとどめておく。アンケートは学習者ダイアリーを記述する、という形で行われ、質問事項などは例としてあげているだけで、強制的にある項目について書くような指示はしていない。学習者の授業に対する評価をするという目的だけではなく、学習者の内面を知ることによって教師と学習者の相互の理解を深める目的としても行われた。その結果、学習者の授業に対する考えや、学習に対する考えなどが分かり、授業の実施方法などの参考となった。

Ⅸ. 全体の反省

1 限目の授業は、Cクラスのクラス目標に従い、場面シラバスを用いて、学習者に実践的な日本語の運用能力を身に付けさせることを目的としていたのであるが、思ったより学習者に文法力がなかったこと、また、学習者にレベル差があったことから、逐次、文法を確認し、場面シラバスに基づいた会話（Dialogue）をボトムアップで教えていく授業となってしまった。これは、初級の文法項目を「入れなければ」という目先の考えに囚われたものと反省する。

限られた日数であるコースの期間、学習者のニーズ、また、学習者に相応しい学習のあり方を考えれば、細かな文法など押し付けずに、学習者の実践的な日本語の運用能力を引き出す授業を展開すべきだったと考える。例えば、学習者達は活発なフリートークができたので、学習者に場面を与えて、フリートークをさせ、その中から表現・文法を適宜教授する方法もあったと思う。そうすれば、学習のレベルにかかわらず、学習者が授業を楽しめたと思う。

2 限目では、計画を立てて、その通りに授業を執行したわけではないために、分析的に授業を反省することが出来ないという点が全体の反省点としてあげられる。特に、自らの修士論文のデータ収集のために、無理矢理日程を組んでしまったところもあり、結果としてはともかく、まとまりのない実習日程となってしまった。

コースが始まると、日々の授業に追われ、余裕を失ってしまうが、広い視野に立ち、他の人のアドバイスを聞くことも必要であると感じた。

<大島・太田>